

JA 北つくば

1. 基本的事項

(1) 概要（令和4年7月31日現在）

- ①名 称 ・ 北つくば農業協同組合
- ②所 在 地 ・ 茨城県筑西市岡芹2222
- ③設立年月日 ・ 平成5年2月1日
- ④地 区 ・ 筑西市、桜川市、結城市
- ⑤組 合 員 数 ・ 正組合員 15,085名
・ 准組合員 7,945名
- ⑥役 員 数 ・ 39名（理事 33名・監事 6名）
- ⑦職 員 数 ・ 340名（男性226名・女性114名）

(2) 主な農畜産物

【 米 】 コシヒカリ・にじのきらめき・つくばSD2号

【 野 菜 】 ハクサイ・キュウリ・レタス・トマト・ねぎ、トウモロコシ

【 果 実 】 こだまスイカ・梨・イチゴ

【 花 卉 】 小菊・アスター

【 畜産物 】 常陸牛・ローズポーク

令和4年4月1日現在

【 銘 柄 産 地 】 ①冬春キュウリ（筑西市協和地区）

②レタス（結城市）

③こだまスイカ（北つくば）

④梨（筑西市下館・関城地区）

⑤小菊（北つくば）

【 銘 柄 推 進 産 地 】 ①にら（筑西市関城地区）

②夏秋トマト（筑西市協和地区）

③いちご（北つくば）

④ねぎ（筑西市関城地区）

⑤冬レタス（筑西市・桜川市）

(3) 子会社名と事業の内容

- ①子会社名：ジェイエイ北つくば燃料株式会社
(主な事業内容：石油販売業)
- ②子会社名：北つくば農協葬祭株式会社
(主な事業内容：葬祭業)
- ③子会社名：JA北つくばハウジング株式会社
(主な事業内容：住宅新築・リフォーム業)
- ④子会社名：JA北つくばアグリファーム株式会社
(主な事業内容：農産物の生産販売)

2. 歴代常勤役員（理事・監事）

(1) 組合長

- ①平成23年6月～平成27年4月 藤田恒雄
- ②平成27年4月～平成29年6月 國府田利夫
- ③平成29年6月～令和3年4月 吉川君男
- ④令和3年4月～ 古澤諭

(2) 専務

- ①平成24年4月～平成27年4月 岩崎修樹
- ②平成27年4月～平成29年6月 吉川君男
- ③平成29年6月～平成30年4月 林薫
- ④平成30年4月～令和3年4月 成田治彦
- ⑤令和3年4月～ 中村統一

(3) 常務

- ①平成24年4月～平成27年4月 吉川君男
- ②平成27年4月～平成29年6月 林薫
- ③平成29年6月～令和3年4月 藤田久友
- ④令和3年4月～ 市村清美

(4) 常勤監事

- ①平成21年6月～平成27年4月 藤田豊
- ②平成27年4月～平成30年4月 成田治彦
- ③平成30年4月～ 河野雅美

3. 事業の推移（概況）

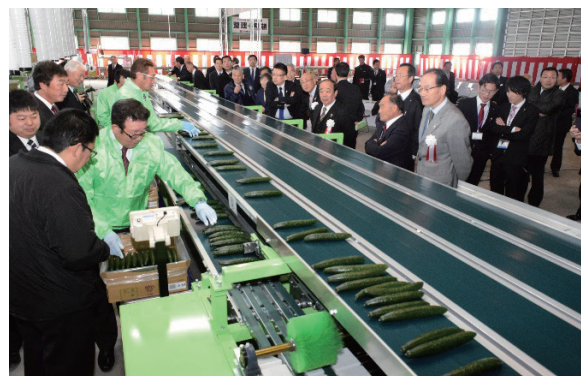
（1）地域農業振興の取り組み

【青果物】

平成26年度に産地競争力の強化を目的に、結城市に「結城トマト選果場」を新設しました。

平成28年度には品質の安定向上や食の安全・安心の確立、生産者の労力軽減を図るため、桜川市に「大和きゅうり選果場」（選果機械設備更新）を整備しました。

平成30年度には桜川市に東部トマト選果場内の選果機械設備を更新するなど、農家所得の安定化とブランド化に向けた取り組みを進めました。



大和きゅうり選果場



結城トマト選果場



東部トマト選果施設 選果機設備竣工式

また、生産者の高い栽培技術と、初の茨城県知事と県内全20JAの組合長が一堂に会して東京青果(株)市場で青果物PRの販売促進を実施するなど、共販体制の強化により、青果物・花き販売高は平成28・29年度に100億円を突破しました。

平成31年度には、こだま西瓜部会が「第48回日本農業賞 特別賞（集団組織の部）」を受賞しました。部会員全体で意識改革を行い「消費者に選ばれるこだま西瓜の産地を目指す」という方向性を見出し、シーズンを通して品質が安定する品種の導入や選果基準を厳格化したことで、平均単価・販売額ともにV字回復し、生産者所得向上を成し遂げたことが大きく評価され受賞に至りました。

令和3年度には県内有数の産地である筑西市関城地区に「梨選果場」を新築、外部からのホコリや異物等の混入を防ぐため、選果室を設置した最新設備を導入しました。



青果物販売高100億円達成記念祝賀会



こだま西瓜部会日本農業賞 交付式



こだま西瓜部会日本農業賞受賞 記念式典



関城地区の「梨選果場」を新築

近年の異常気象に対応できる産地づくりの確立に向けた営農指導員の育成を目的に、専門業務従事者を中心とした若年層営農指導員から中堅営農指導員までを対象に、階層別の内部研修会を開催し、指導力・スキルの向上を図りました。

しかし、販売面では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、ステイホームによる需要増と外食産業の自粛に伴う需要減という両極端な販売環境となり、一進一退が続いています。



専門業務従事者によるトマト現地講習会



専門業務従事者によるレタス現地講習会

【水田農業】

平成20年から本格始動した買取米制度は、「地域一番」を目標に事業を進めており、導入から5年目を迎えた平成24年産米には、「大口出荷者奨励制度」を導入しました。

平成25年度からは大口出荷者奨励制度を拡充したものの、余剰米の影響などにより、米価は22年産米の水準まで低迷しました。消費低迷による民間在庫の増加により概算金が大幅に下落し、非常に厳しい年が継続しました。

一方、需給改善に向けて飼料用米の作付けを推進したことにより、平成27年度には前年度の7倍までに取扱実績を伸張しました。米価は、主食用米の生産量が減少し出来秋時の市中相場が高騰するなど、一定程度回復傾向がみられました。また、蔓延するエリアが拡大しているイネ縞葉枯病^{しまはがれ}による減収が懸念されましたが、苗箱処理剤の普及や無人ヘリによる航空防除等により集荷量を確保しました。

なお、食の供給基地として更なる産地強化に向けた計画的な農業関連施設の導入・改修として、平成29年度にJA管内6カ所の共同乾燥施設（RC・CE）の修繕・更新を行いました。

また、平成30年産より国からの米の生産配分が廃止となり、茨城県農業再生協議会からの生産配分面積に相当する数量が示される体制となったことから、経営所得安定対策事業を活用し、これまでの飼料用米に加え、輸出用米・加工用米への誘導に取り組みました。

特に、輸出用米には大幅な作付誘導が図られ、JAグループ茨城における取扱量の6割以上を占め需給調整に貢献しました。



「茨城米」フレコン



検査員による米の検査風景

目的に、組織機構改革において「営農指導」のプロ、生産部会や市場等への対応を行う「販売」のプロ、買取米の販売を行う「米」のプロを長期間にわたり人材育成し、より専門的能力の発揮に向けて平成28年度に「専門業務従事者」9名を配置しました。



専門業務従事者が市場で青果物をPR

その後、新たに「経営支援のプロ」を選任し10名体制とし、東京オリンピックへの農産物供給体制の強化に向けて、GAP（農業生産工程管理）推進を強化すべくGH（グリーンハーベスト）評価員資格を取得しました。

マーケットインに基づく契約・買取販売の拡大を図るため、実需者ニーズに応える「コメづくり」への計画的な作付誘導とJA北つくば産米の付加価値向上を目指し、安定需要が見込まれる新品種の導入を進めています。平成26年から実需者ニーズに合わせて開発された水稻品種「つくばSD2号」の生産委託を受け、需要先への安定供給に向けた生産拡大に取り組みました。

令和元年には、安定需要が見込める水稻多収品種「にじのきらめき」を業務用米として作付を推進し、令和4年産の「にじのきらめき」作付面積は、約440㍏で日本一の産地となりました。

あわせて、JA管内で作付けされるコシヒカリにおいては、年々収量が減少していることから、その原因を探るべく土壌改良剤投入による生育調査を実施しました。

その結果、地力が回復することで収量に改善が見られたことから、今後も継続して収量増加に向けた試験を実施していきます。



業務用米「つくばSD2号」



「にじのきらめき」作付け日本一

また、東部トマト選果場（桜川市大和地区）に新たな選果機を導入し、品質の向上、ブランド力の強化に取り組み、東京五輪開催を控え、GAP（農業生産工程管理）への取り組みの必要性を勧告し、今後の変化に瞬時に対応できる人材育成の一環として、JGAP指導員・GH（グリーンハーベスト）評価員資格を取得しました。

さらに、米の専門業務従事者（1名）を選任し米販売の強化を図り、近年の異常気象に対応できる産地づくりを確立するため、営農指導員の育成を目的に専門業務従事者を中心とした職員育成研修会を開催し、営農指導員の指導力、スキルの向上に努めました。



専門業務従事者による職員育成研修会

購買事業では、大口値引き価格の設定や生産部会と連携した予約取りまとめを実施。また、省力肥料の普及推進、新たなコシヒカリ専用一発肥料の試験実施、安価な水稻培土の開発、飼料用米一発肥料の取扱開始、水稻一発除草剤担い手直送大型規格の取り扱いなどにより、生産コスト低減と労力の省力化に向けて取り組みました。

肥料のトラック満車自己引き取り大口値引きを実施し、大規模農家や低利用農家を中心とした、大型規格の茎葉処理除草剤の普及拡大を行うことにより、農家コストの低減に努めました。スマート農業の導入に向け先端農業説明会を開催。農業用ドローン2機を導入し、本格稼働に向けインストラクター・オペレーターを養成し、試験的散布を実施しました。

茨城県結城市のJA北つくばは、西武経済センターは、今年から大口農家を対象に肥料の自己引き取りを開始した。取り組みは自己改革の一環で、農家の生産コスト引き下げが目的。露地野菜の産地であり、肥料の品目を絞ることで同地区をモデルケースとして試験的に始めた。

肥料自己引き取り

茨城・JA北つくば

予約価格からさらに

100円

コスト減、在庫効率化

「試験的に始めた予約自己引き取りだが、購入者からの評判は高い。肥料を選定する際には連日、農家が自家用トラックなどで肥料引き取り、在庫管理の効率化ができています」と話す。JAの古川群農組合長は「試行的に始めた予約自己引き取りは、双方のメリットは大きい。購入者からは「価格も安

決り、当日同センターに納め、計画的に施肥ができてきた。肥料を農家が全量引き取り、自らの肥料倉庫に保管する。在庫を圧迫しないのが助かる」と区長も喜ぶ。

「試行的に始めた予約自己引き取りだが、購入者からの評判は高い。肥料を選定する際には連日、農家が自家用トラックなどで肥料引き取り、在庫管理の効率化ができています」と話す。JAの古川群農組合長は「試的に始めた予約自己引き取りは、双方のメリットは大きい。購入者からは「価格も安



先端農業説明会



オペレーター養成研修



農業用ドローン試験散布



農業用ドローンを導入

2) 地域・くらし分野

次世代をはじめ多様な組合員や地域住民に対して協同組合組織としての機能・役割を深めるため、全支店において協同活動を実践しています。地域コミュニティの拠点を目指し、平成26年度に「JA北つくば地域くらし戦略」取組基本方針を制定し、10支店ごとに「ふれあい委員会（委員長：支店長）」を立ち上げ、その地域にあった支店独自のイベントを企画し、「ふれあいまつり」や「夏休み親子体験教室」「出張購買」などを実施しています。この活動により普段JAに訪れることのなかった地域の人たちとの交流を広げています。



ふれあいまつり



夏休み親子体験教室

3) 組織・経営分野

地域特性を踏まえた「JA経営基盤戦略」を策定し、健全経営に相応しい経営体制確立のため、求められる経営資源の再配置、総合的なリスク管理体制の構築に取り組んでいます。

JAでは毎月の「ふれあいデー」として、全正組合員に対して広報誌「すてっぷ」の配布をはじめとする訪問・対話活動を実施している他、対話活動の一つとして「地区別事業報告会」を毎年開催しています。より幅広い意見や要望をJA事業に反映するため、各地区の総代をはじめ、生産部会・青年部・女性部の組織代表者と意見交換を実施しています。



広報誌「すてっぷ」

その一つとして要望のあった直売所のリニューアルオープン（平成28年度）を実施し、生産部会から要望のあった選果場における機械設備更新（平成28年度・平成30年度）を行った他、営農経済センターの新設（平成31年：下館営農経済センター）を行い、令和に入り梨選果場を新設しました。



地区別事業報告会



直売所リニューアルオープン



下館営農経済センター 竣工式



関城地区梨選果場 竣工式

令和3年度に、准組合員の皆様との対話活動に向けて「准組合員プロジェクト委員会」を立ち上げ、意思反映に向けての活動を企画し、これまで3回の訪問活動を実施しました。



准組合員訪問活動

(3) 地域貢献活動の取り組み

JAでは、親子が集いあそびを通して交流を深め、母親の育児不安の解消と元気な子どもの成長を図ることを目的に「子育て支援センター「はだしっ子」」を平成20年度に開設し、毎週2回の自由あそびと月1回の企画あそびを行っています。



子育て支援センター「はだしっ子」



「はだしっ子」企画あそび

当時、働く女性の多くは、子育てと仕事の両立に悩み、子育て支援を望んでいる女性が年々増加した中で、子育て支援を通じて地域女性をサポートし、地域貢献につながる事業の確立に取り組んでいます。

妊娠中や1歳未満児の乳児をもつ女性を対象とした会員制の「ぶれままクラブ（現在はこどもクラブへ名称変更）」も地域福祉活動の一環として取り組んでいます。

また、地域における出会いと交流の場の創出や地域活性化を目的に、隣接するJAと合同で婚活パーティーを企画・実施。毎年数組のカップルが誕生しています。



「第7回合同婚活パーティー」

J AとJ A共済連茨城は、子どもたちの交通事故を防止するため、昭和51年より交通安全帽子の寄贈を続けており、令和4年度で46回を迎えました。また、次世代への取り組みとして、次代を担う少年たちが野球を通じ、健全な成長と参加児童や各地区の人々との交流、地域の発展に寄与することを目的として「J A共済北つくば杯学童野球大会」を開催しています。

さらに、地域貢献と食農教育の一環として毎年、「J A北つくばサッカー教室」を開催するとともに、J A女性部による地場産農産物で作った料理をふるまう他、農畜産物に関連したクイズ大会を行うなど、食農教育にも力を入れています。



小学生へ黄色い帽子を寄贈



J A共済北つくば杯学童野球大会



J A北つくばサッカー教室



女性部による支援活動

農業振興活動の一環として、日頃農業と親しむ機会のない都会に住む親子に農業体験を通じて農家との交流を深め、食や農業の大切さを考えてもらおうと毎年「親子農業体験」を実施しています。J A管内の圃場にて地区青年部員に協力いただき、定植・収穫体験を行っています。

また、「国際協同組合同年」にあたる年には、J A茨城県中央会、生協等と一体となって取り組んだ「国際協同組合同年サンクスマッチ」や「福島子供保養プロジェクト」へ積極的に参加し、J Aにおいても、結城地区の組合員圃場へ福島県の子どもたちを招き「J A北つくばとうもろこし収穫体験ツアー」を実施しました。

平成29年度からは、地域の子どもたちに温かい夕食と学びの場を提供する「こども食堂」へJA産のお米や野菜のおいしさを伝えるとともに、食材を無償提供しています。

また、ボランティア団体や生活協同組合の仲間と連携し、地域貢献に取り組んでいることや、平成30年度からは本格的に認知症の人やその家族の応援者となることを目的に「認知症サポーター養成研修会」を開催。認知症の正しい知識を身につけ接するときの心構えや具体的な対応を学んでいます。



親子農業体験



とうもろこし収穫体験ツアー



子ども食堂にお米を寄贈



認知症サポーター養成研修

近年では、地域のマラソン大会に協賛している他、万が一、災害が発生した際に、地域住民に対しスムーズに炊き出しが行えるように、各地区女性部による「炊き出し訓練」を実施しています。ライフラインが止まることを想定し、薪を使いかまどで米を炊き上げる他、手軽に作ることでできる一品料理を考案しています。



女性部による炊き出し訓練

コロナ禍のおり、「元気になろうプロジェクト」と題し、直売所来店者に抗菌作用のあるレモンバームの苗を配布した他、医療従事者への「こだま西瓜」の贈呈、管内小・中学校には花の苗を生産部会とともに寄贈し、合わせて飛沫感染防止のための「アクリルパーテーション」を贈りました。



小・中学校に花の苗を寄贈



医療従事者にこだま西瓜を贈呈

(4) 自然災害の発生

1) 平成26年2月の降雪

降雪によりハウスの倒壊や損壊が発生、トマトやキュウリ、ハウス梨をはじめイチゴ苗など年間を通して出荷に影響を及ぼしました。管内農作物の被害額は約1億21百万円、農業施設には約4億64百万円の被害が生じるなど広範囲で大きな農業被害が発生しました。



倒壊したハウス

J Aでは早期復旧を目指すため、茨城県議会政務調査会に対して、災害条例の適用や倒壊したハウスの撤去費用に対する助成など7項目にわたる要望書を提出し、これにより被災施設の復旧に係る補助事業の実施が決定するなど、行政や関係機関と連携し事業申請手続き支援を行いました。



復旧作業（ボランティア活動）

合わせてJ Aでは、いち早く被害状況の把握に努め、農家組合員からの応援要請のもと、J Aグループ茨城の職員と共に倒壊したハウス撤去作業を行うなど、相互扶助の精神に基づき災害復旧ボランティア活動を行いました。

2) 平成28年1月の降雪

降雪により、ハウスの倒壊や損壊によりイチゴやレタス、定植時期を迎えていたこだまスイカに影響を及ぼし、JA管内での農作物被害額は推計8,583千円、農業施設は推計104,348千円の被害が生じるなどの農業被害が発生しました。

JAでは早期復旧を目指すため、いばらき自民党政務調査会の現地調査への対応と農業施設再建に向けた助成を要請するとともに、いち早く被害状況の把握に努め、農家組合員からの応援要請のもと、JAグループ茨城・茨城県生協連の職員と共に、倒壊したハウス撤去作業を行うなど、相互扶助の精神に基づき災害復旧ボランティア活動を行いました。



ハウスの被害



復旧作業（ボランティア活動）

3) 平成27年9月関東・東北豪雨

記録的な豪雨で甚大な被害を受けた常総市で、当JA職員がボランティア活動を実施。支援活動は、炊き出し用の食材や女性部による支援物資の提供、被災直後から行うJA常総ひかり施設の復旧と並行し、地域住民や組合員宅にも支援対象を広げ、片付け作業を行いました。



水害の状況



支援物資の提供

4) 平成28年5月熊本地震支援活動

JAグループ茨城は平成28年5月、JA全中の熊本地震支援活動に参加し、県

内JA・連合会職員と共に被災地に派遣。当JAから2名が支援活動に参加。5月16日に被災地に入り、JA阿蘇いちご部会員のハウスで解体と資材の撤去を行い、2日間で4棟分の作業を進めました。JAグループ茨城は、JA熊本県中央会やJAかみましきに生活用水やお茶のペットボトルなどを提供。県青年部・女性組織と一体となって見舞金活動を実施しました。



JA阿蘇いちごハウスでのボランティア活動

JA北つくばのマスコットキャラクター紹介



きらりくん

スイカの帽子がチャームポイント。目がキラッと輝き、明るく活発で、地産地消の応援をファーマーズマーケット「きらいち」から依頼され、日夜活動を展開しています。また、農産物の知識は博士クラスの知識少年です。



スイホーちゃん[㊦]・スイホーくん[㊧]

イチゴの衣装をまとったスイホーちゃん。
筑波山の帽子と結城紬の衣装をまとったスイホーくん。
どちらもお米をモチーフにしたキャラクターです。



JA北つくばのマスコットキャラクターは、着ぐるみも制作し、JAのイベントなどに登場して会場を盛り上げています。



はだしっ子 ファミリーコンサート



4. 事業成績並びに財産及び損益の状況

(単位：千円、%)

区 分	項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
財務	事業利益	465,736	295,642	650,856	686,510	760,081	336,825	261,606	374,707	381,361
	経常利益	635,577	462,216	796,521	825,196	896,111	651,507	595,015	689,672	703,542
	当期剰余金	304,370	290,385	534,064	519,394	611,684	520,310	423,585	418,385	480,239
	総資産	200,670,943	200,751,737	206,254,085	213,273,723	219,040,171	224,505,786	230,399,891	237,902,337	241,307,591
	純資産	13,338,219	13,461,094	13,828,245	13,983,464	14,661,069	15,039,607	15,780,625	15,826,993	16,132,833
	単体自己資本比率	18.12	18.53	18.05	18.33	17.81	17.83	16.79	16.68	16.96
信用事業	貯金	181,228,282	180,609,369	185,768,845	192,853,869	197,980,943	203,820,276	209,032,367	216,824,516	220,224,789
	預金	121,532,395	121,564,548	130,291,778	134,290,106	136,520,985	140,542,811	143,345,380	150,016,051	152,319,783
	貸出金	32,627,174	32,745,625	29,836,989	31,905,826	33,243,333	35,021,243	35,696,069	35,571,675	36,487,438
	有価証券	25,690,499	26,519,024	25,881,577	26,715,233	28,430,538	28,458,881	30,835,268	31,624,398	32,005,358
	うち国債	6,782,538	6,132,528	6,119,191	7,109,912	6,594,400	5,223,982	5,353,344	6,622,470	6,105,120
共済事業	長期共済保有高	793,572,300	762,068,738	729,880,790	702,092,475	672,992,002	643,553,989	614,875,474	586,697,277	560,438,284
	短期共済新契約掛金	845,035	889,224	919,176	896,528	928,613	885,609	876,652	863,936	879,922
購買事業	購買品供給高	5,695,011	5,550,461	5,388,198	5,395,486	5,297,448	5,290,211	5,323,396	5,138,528	5,233,239
販売事業	販売品販売高・取扱高	15,710,387	14,687,759	14,896,477	16,492,682	16,027,400	15,562,911	14,803,916	15,064,177	14,765,004
保管事業	取扱高	106,088	106,425	101,139	105,481	105,141	102,747	102,818	107,261	125,106
加工事業	取扱高	43,161	42,005	45,378	45,551	46,521	43,664	40,224	34,633	31,291
利用事業	取扱高	562,180	523,525	508,029	510,715	542,059	234,462	226,133	213,182	222,200
宅地等供給事業	取扱高	31,604	31,303	39,718	37,802	33,240	36,535	28,908	31,442	32,259